



龍に婿入り



村長よ



村で一番丈夫な男を…

お前の家の子を
俺のところへ寄越せ

案ずるな
悪いようにはしない

頼んだぞ



—と、いうわけなんだ

本当にすまない

龍神様から
こういった…

人を寄越せといった
神託は今まで
一度も無かったんだが



気にしないでくれ
爺ちゃん

村の役に立てるなら
それでいいんだ

まさか村長のとこの
亮太りょうたがなあ

親も早くに亡くした
あの子がこんなことに
なるなんて…

俺は自分を不運とか不幸だと思ったことはない

親は山賊に襲われて
幼い頃に死んでしまったけど、
子供ができなかった
村長夫婦に引き取られて
なに不自由なく暮らしてきた

いつかは伴侶を見つけて
家に子供を残して
やりたかったが仕方ない

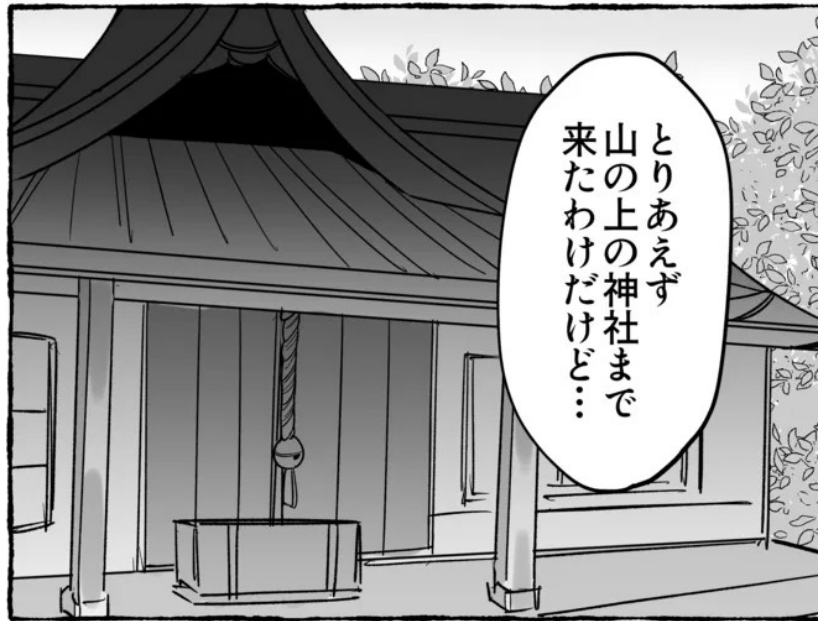
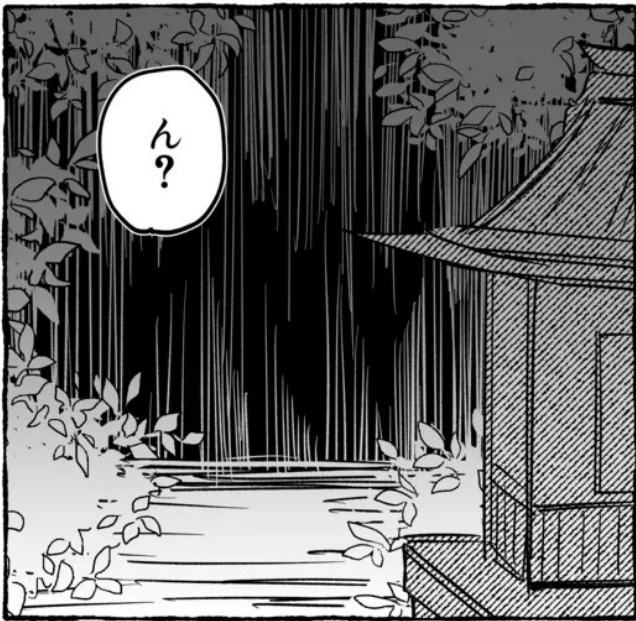
ここまで生きてこれたのが
きっと幸運だったんだ

じゃあ爺ちゃん、
あまり無理して
体壊すなよ

お前こそ
用事が終わったら
きちんと帰ってこい

お役御免に
ならないことを
願っておいてくれ

亮太…元気で





カ
ラ
ラ
ラ

ひとりでに
扉が開いた？

ということは
ここが…

ゴクッ

失礼します…

長い廊下？

先が全然見えない

外から見た時と
ずいぶん作りが
違うなあ



っわ、



廊下が消えたっ!?

なっ、

来たか

す、すみません
勝手に入って

構わない
俺が呼んだのだから

待っていたぞ

ア...

じゃあ、

あなたが…

そう畏まる^{かしこ}ことはない

俺のことは
憂^{ネウロン}瓏と呼べ

来たばかりで悪いが
湯浴みをしてもらおう

この障子の
すぐ外だ

くれぐれも
逃げるなよ



ユウロン
憂瓏、様…
不思議な名前だなあ



人生最後の
風呂としては
十分すぎるくらい
立派だな



はあ…



あんな美人になら
まあ…

食われるのも
悪くないか



ではさっそく
始めよう

ああ

!?



戻りました

ちょよ、ちょっと待って！

始めるって何を！？

なんだ、
言っていないなかったか

じいちゃ、

…村長の話では
龍神様が呼んでる
ことしか…

だからってつきり
生贄として
食われたり…とか…

食う？
俺が？お前を？

っは！
人間にとつて
神はそんな
野蛮なものなのか

野蛮とまでは
思っていないけど…！

いん
ところでお前、
誰かと
交尾した経験は？

こっ、交尾…？

いや、無いです



?

それってどういうふう…



ならば

「食う」というのも
あながち間違いでは
ないかもしれないな



お前を呼んだのは

俺の子作りを
手伝ってもらうためだ



っ!
!?

俺と交尾して
この腹に子種を注げ

え、

はああ!?

それがお前の
ここでの役割だ

すっぴん♡

交尾って…
男同士なのに？

というか男は
子を孕めないんじゃ、

あと俺そーいうのは
全然わからなくて…

お前も早く脱げ

……っ

—ほう？



さて、交尾をするには
まずお前の魔羅を
勃起させなければ
いけない

はあ



悪くない

…どうも



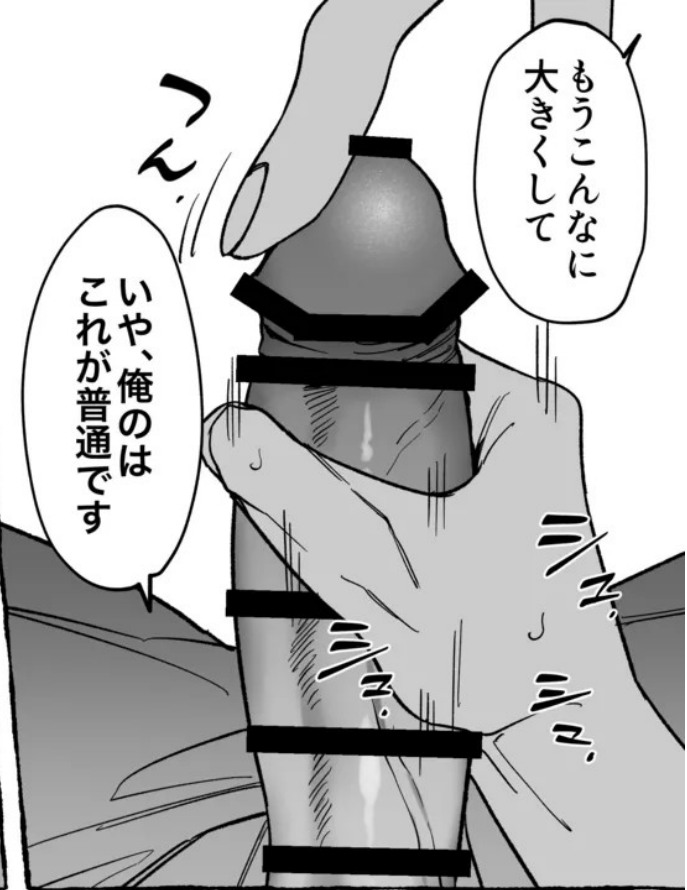
よし、勃たせてみる

南蛮の奇術じゃ
ないんだから…



まあ
やるしか
ないんだけど

…おお





え



これに触るのか？

それで？

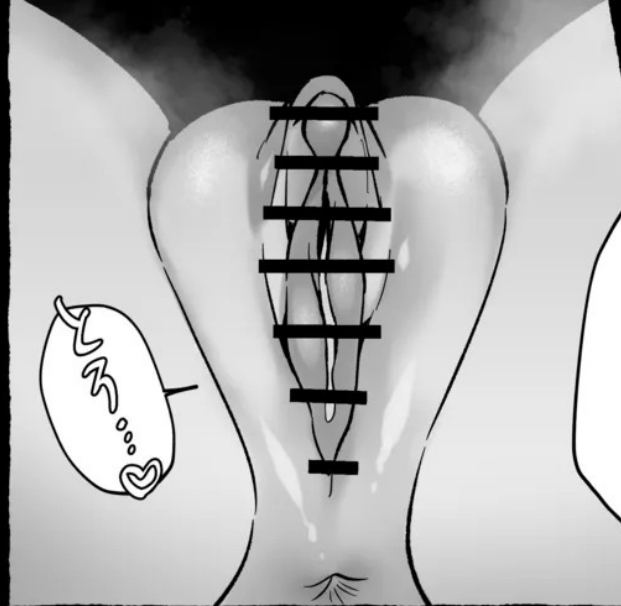
あれ？
男、じゃ…

ああ、
普段は男体だ

初めは俺が雄の役割を
するつもりだったが
龍の子を宿すのは
人間には負担が大きい

人間を孕ませるより

俺が孕んだほうが
危険もないと考え、
身体を弄った



え、えっと
この場合は...



触られたくない
ところとか
ありますか？

無い
自分でも
そうじっくりと
触れたことはないな



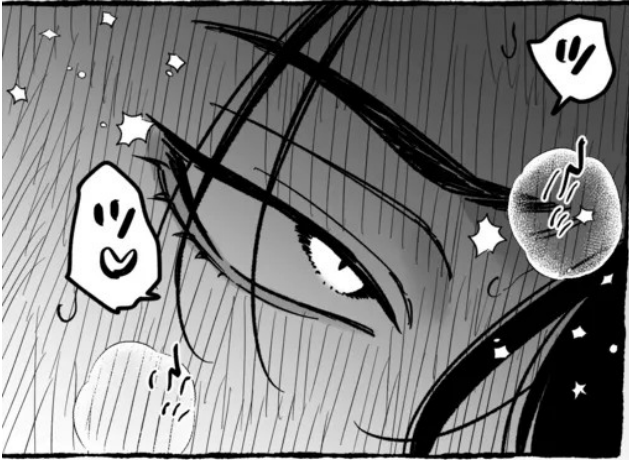
構わない
その、初めて見るので
触る前によく
見せてもらっても？



へへえ

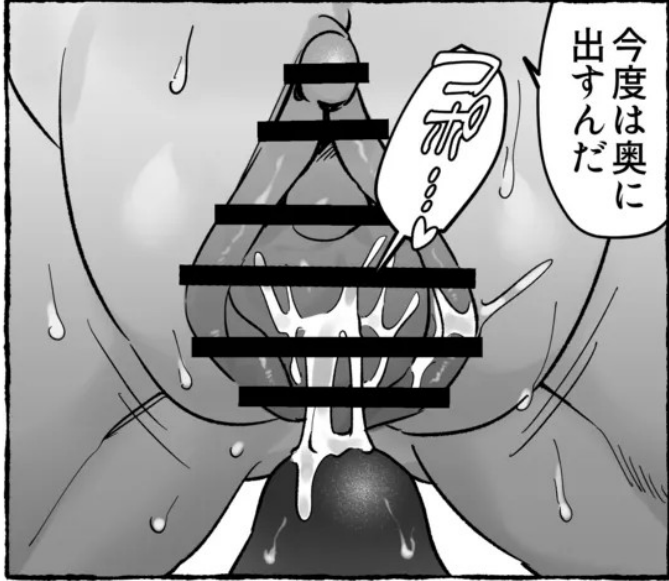
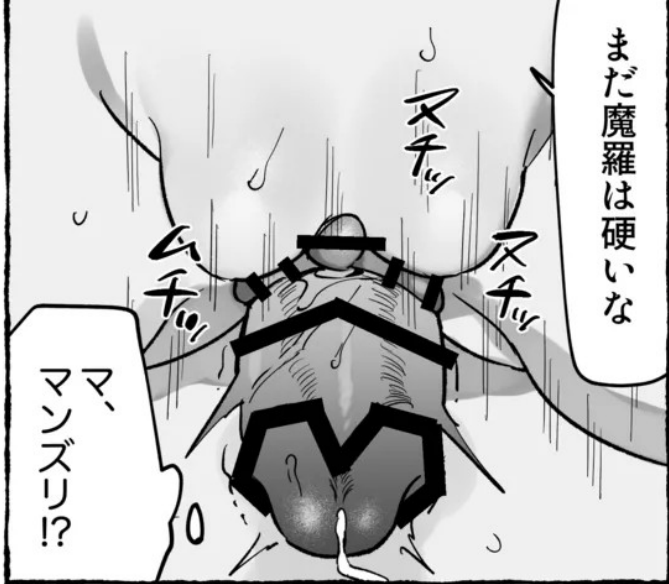














憂瓏様、もしかして気持ちよくないんじゃないんじや…



だめですよ！



手をこっちに

ああほら、
こんなに痺れてる

お前の手は
皮が厚くて固いな

⋮

我慢してください



それに温かい

不思議な心地だが、
悪くない

もっと触れ

す
り

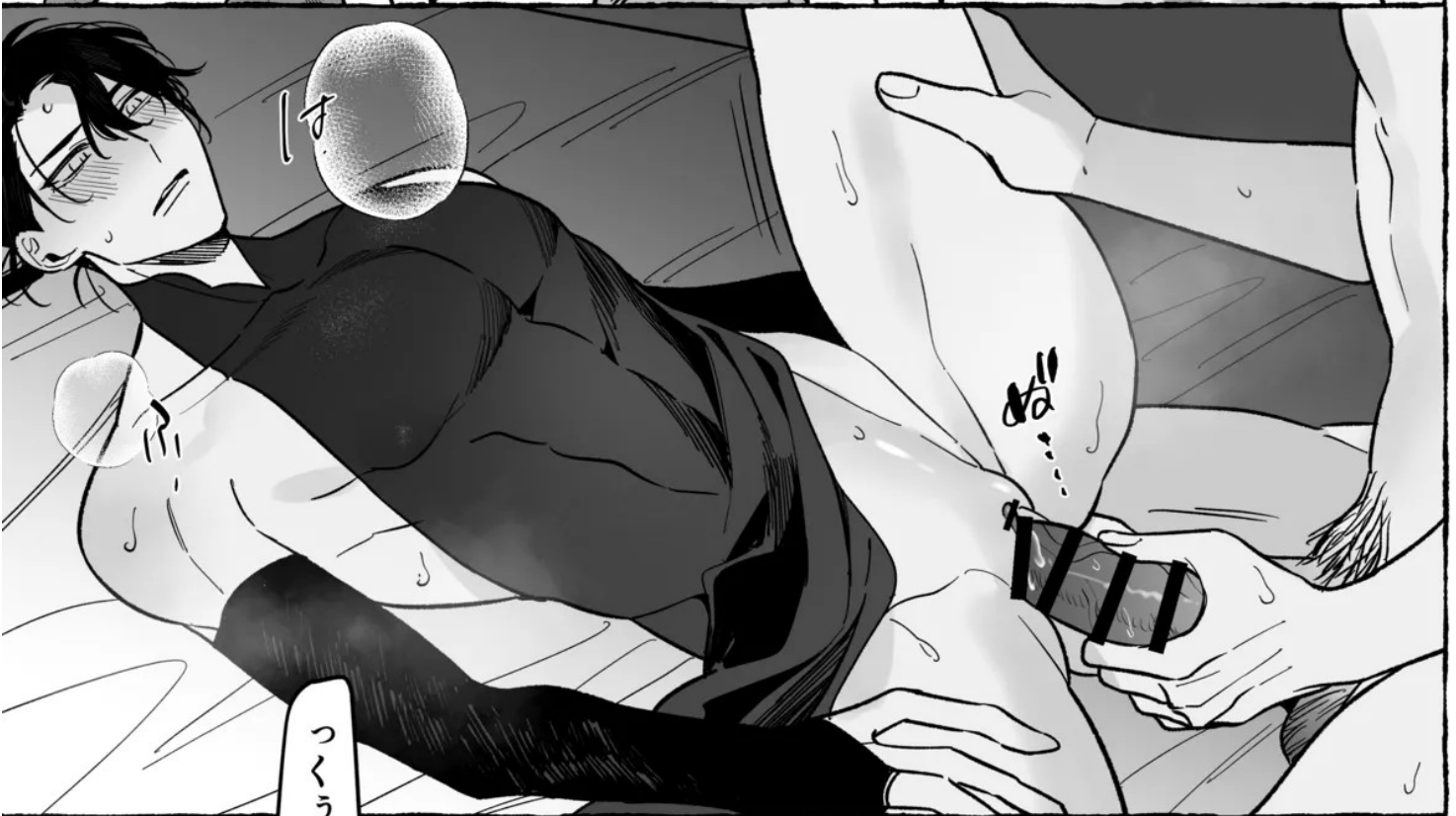
く
い

ここ
まだ痛いですか？

痛みというより
圧迫感が強かっただけだ

じゃあう一回

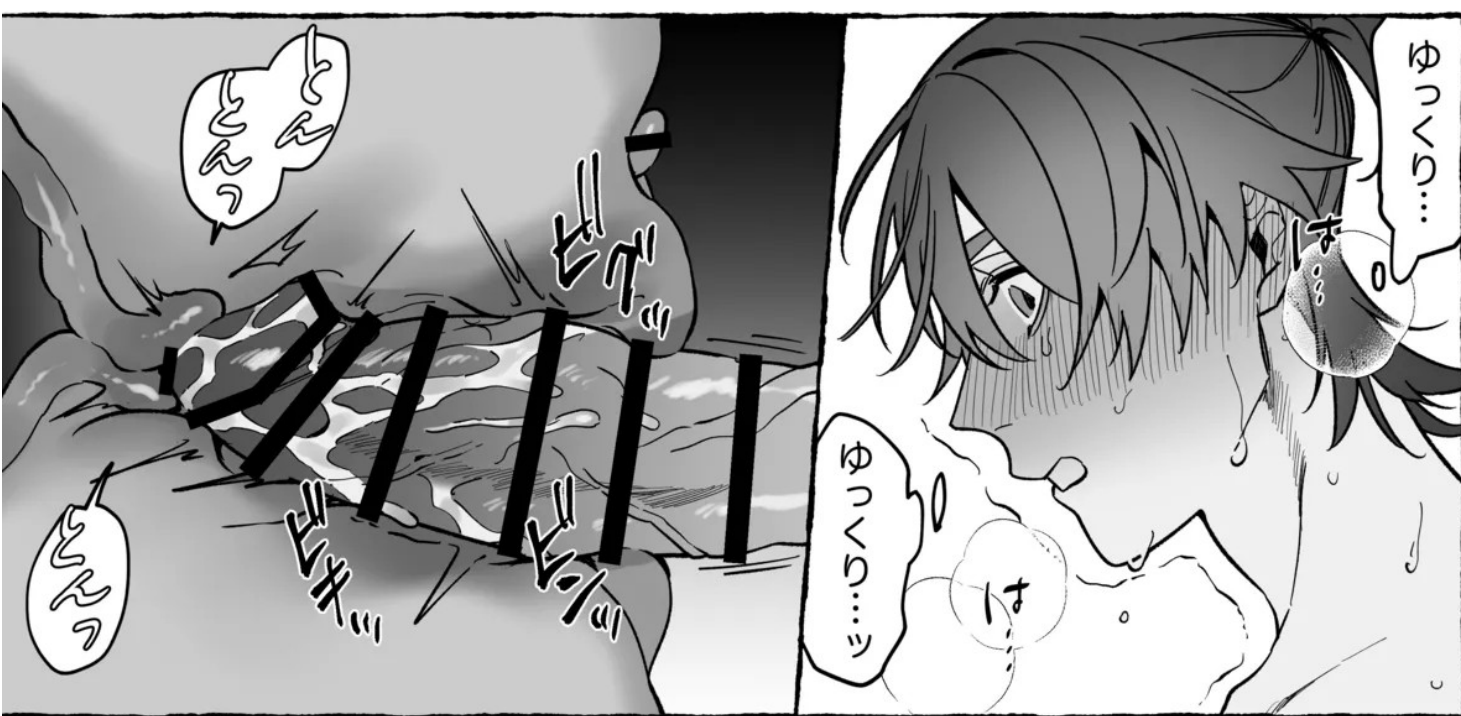
ああ…



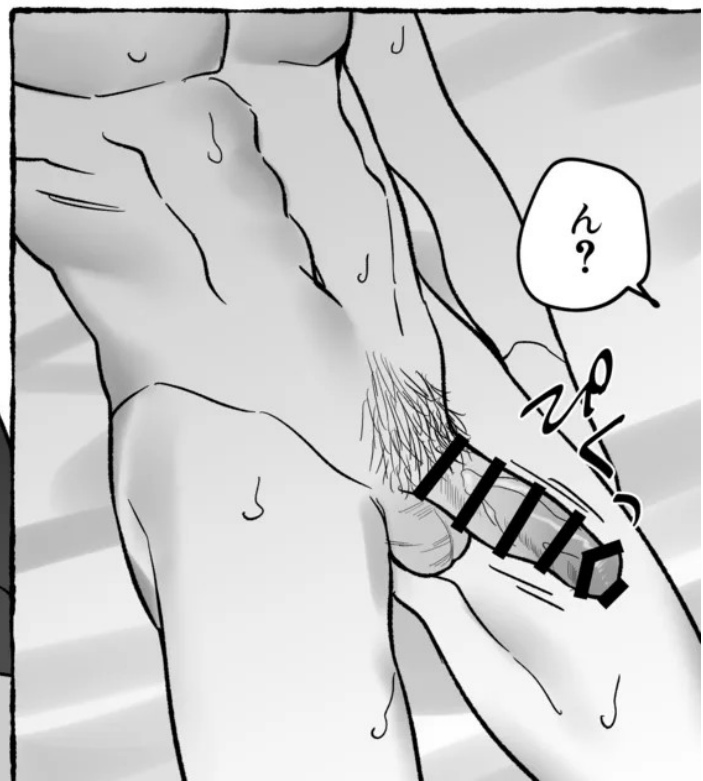
つくろ、ッ



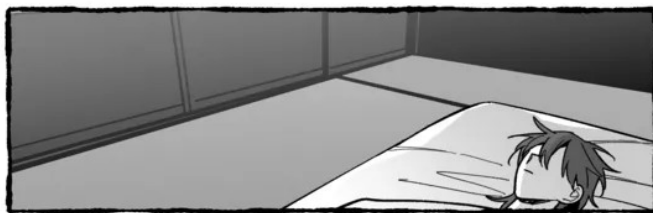
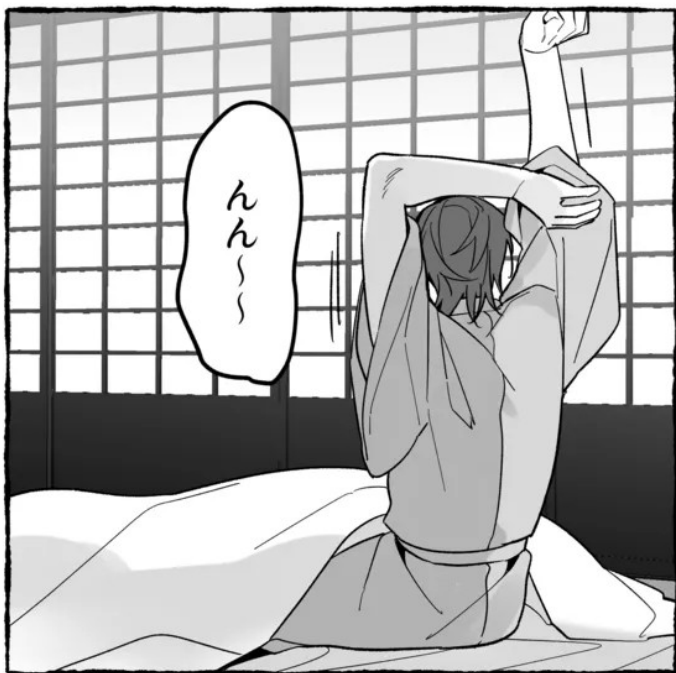








龍に婿入り





来い
背中を流してやろう

なぜ逃げる
失礼しました!!

カッ





わかってる、けど、
何かしていいないと
落ち着かないというか…

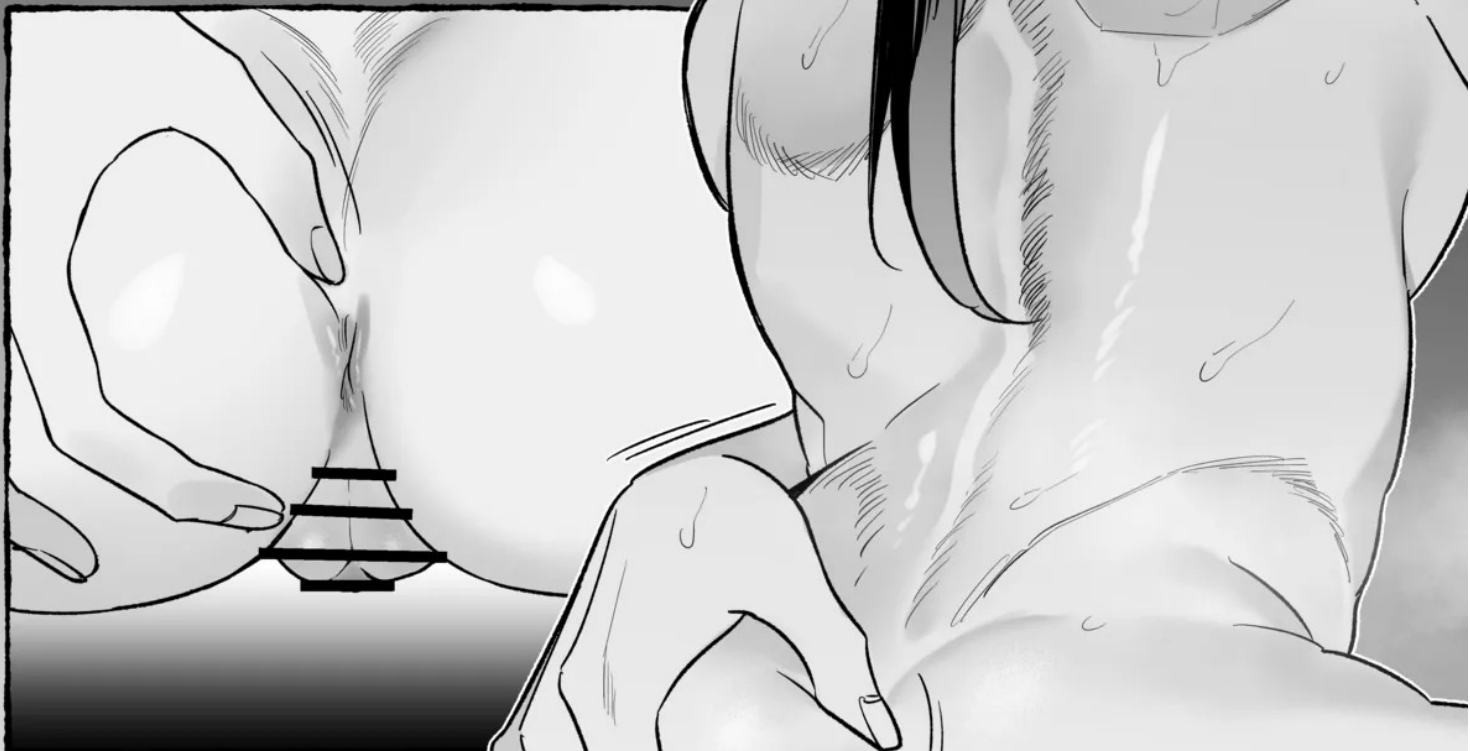
ふん
働き者だな？

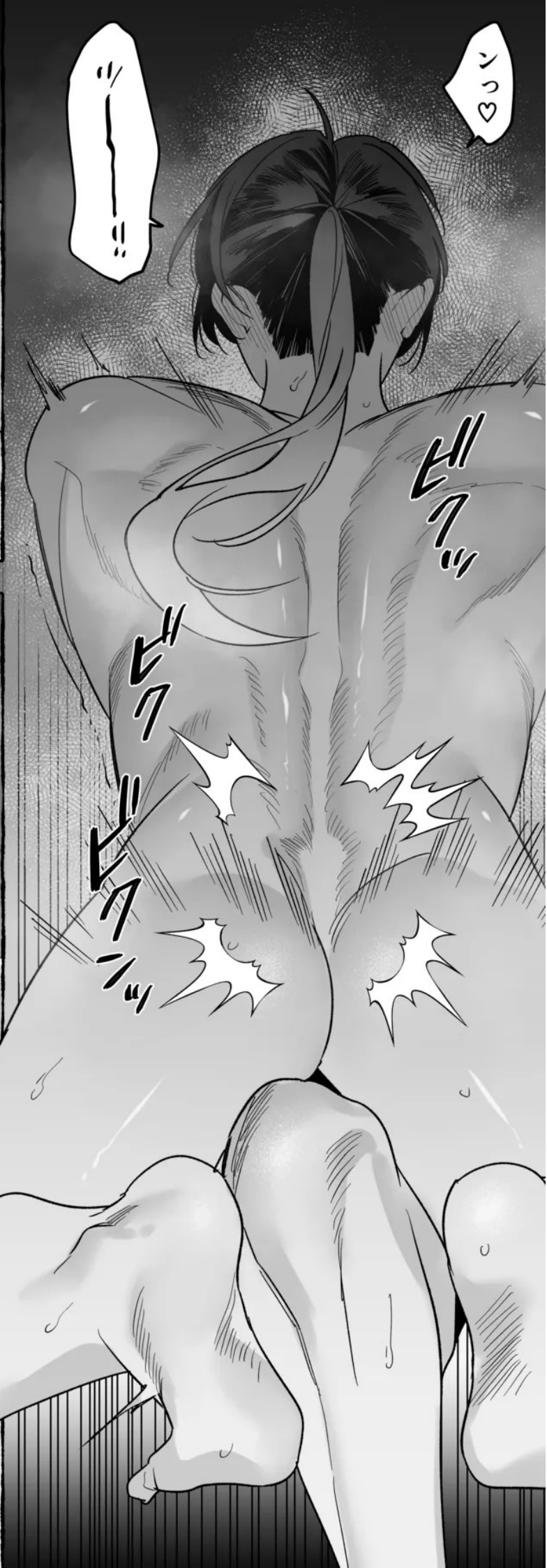
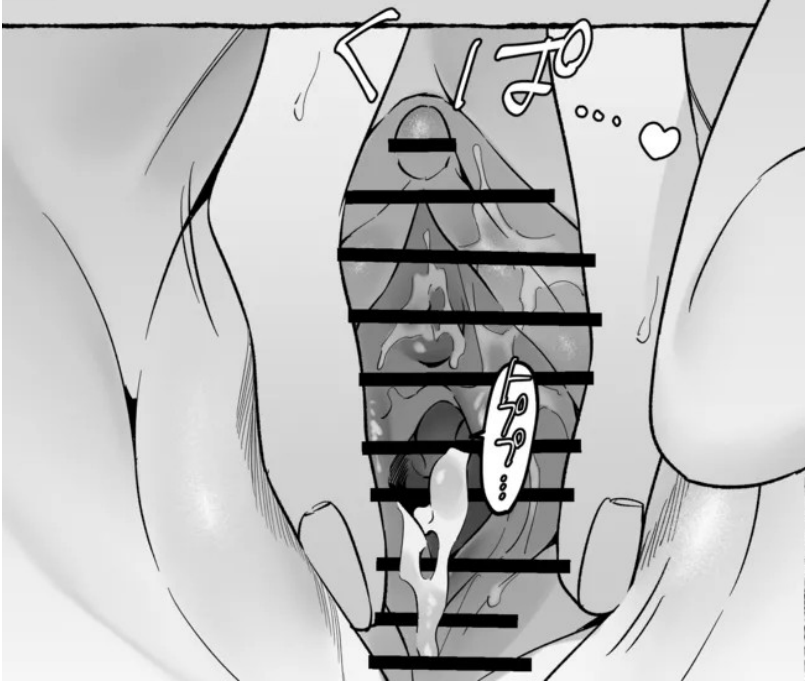


畑仕事で疲れて交尾が
疎かになっては
本末転倒だからな

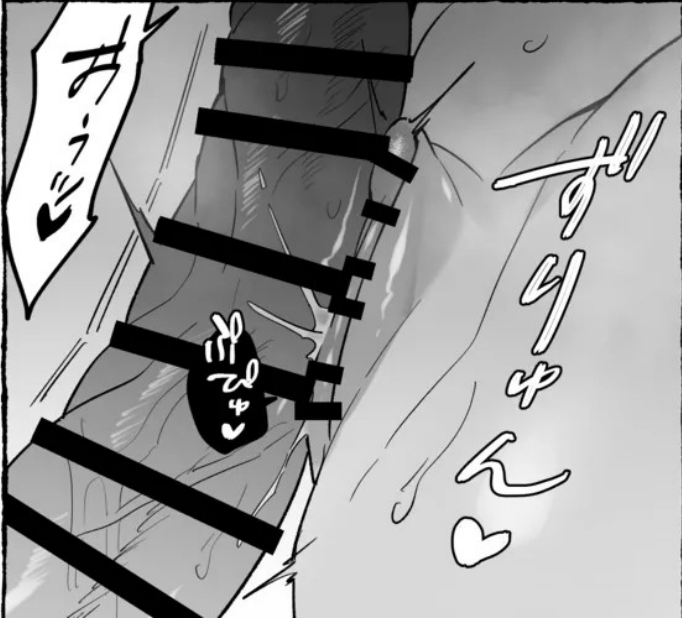
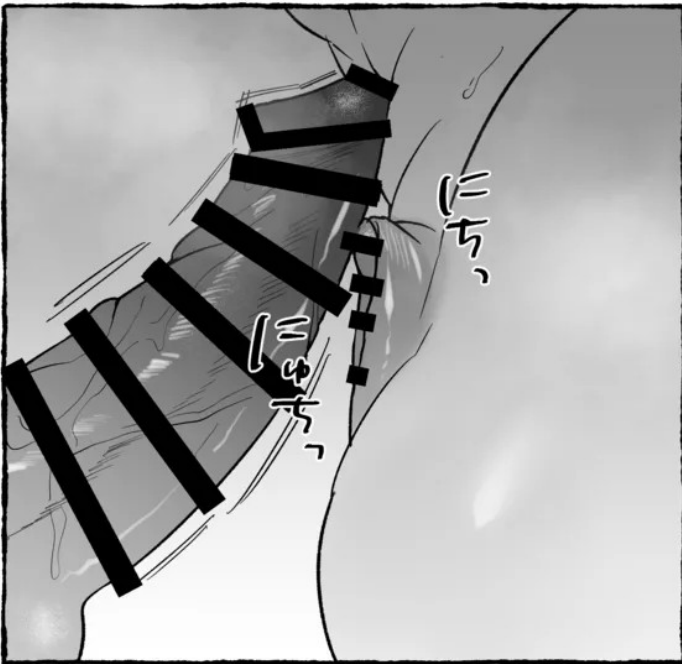


ここが大きくなったら
仕事中でも
必ず俺を呼ぶんだぞ？





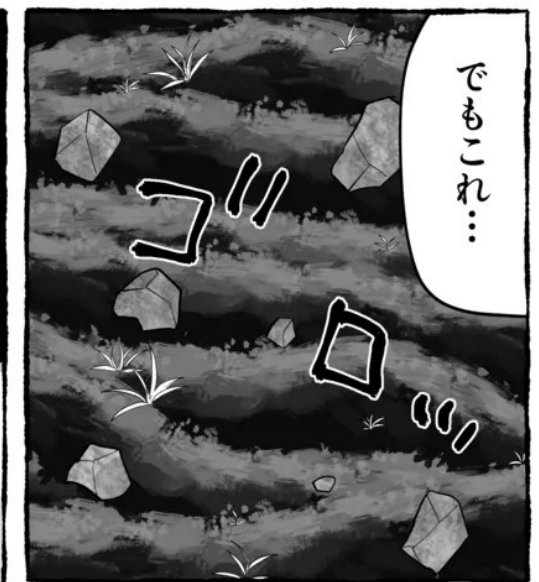






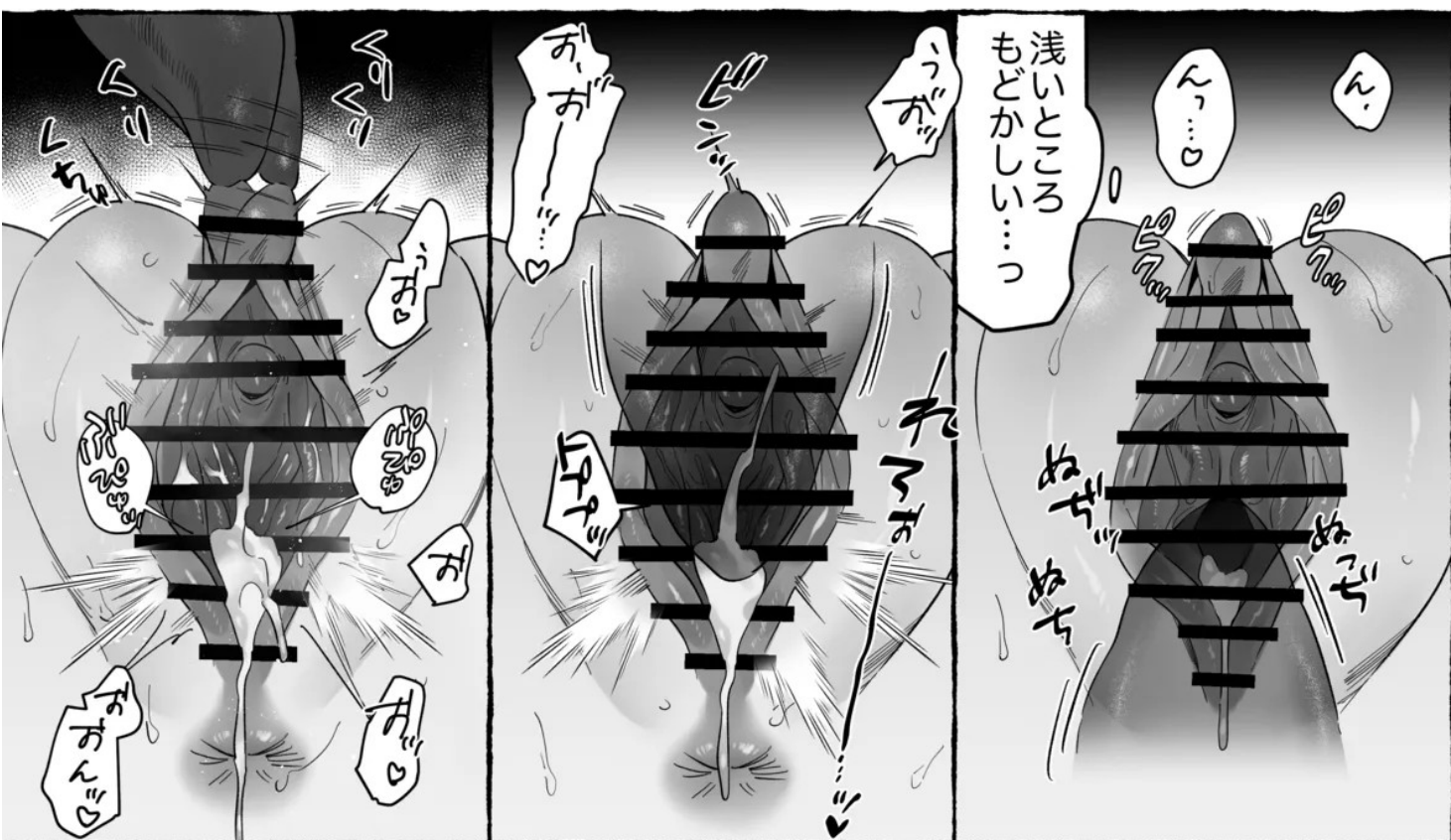


…また風呂
入らないと

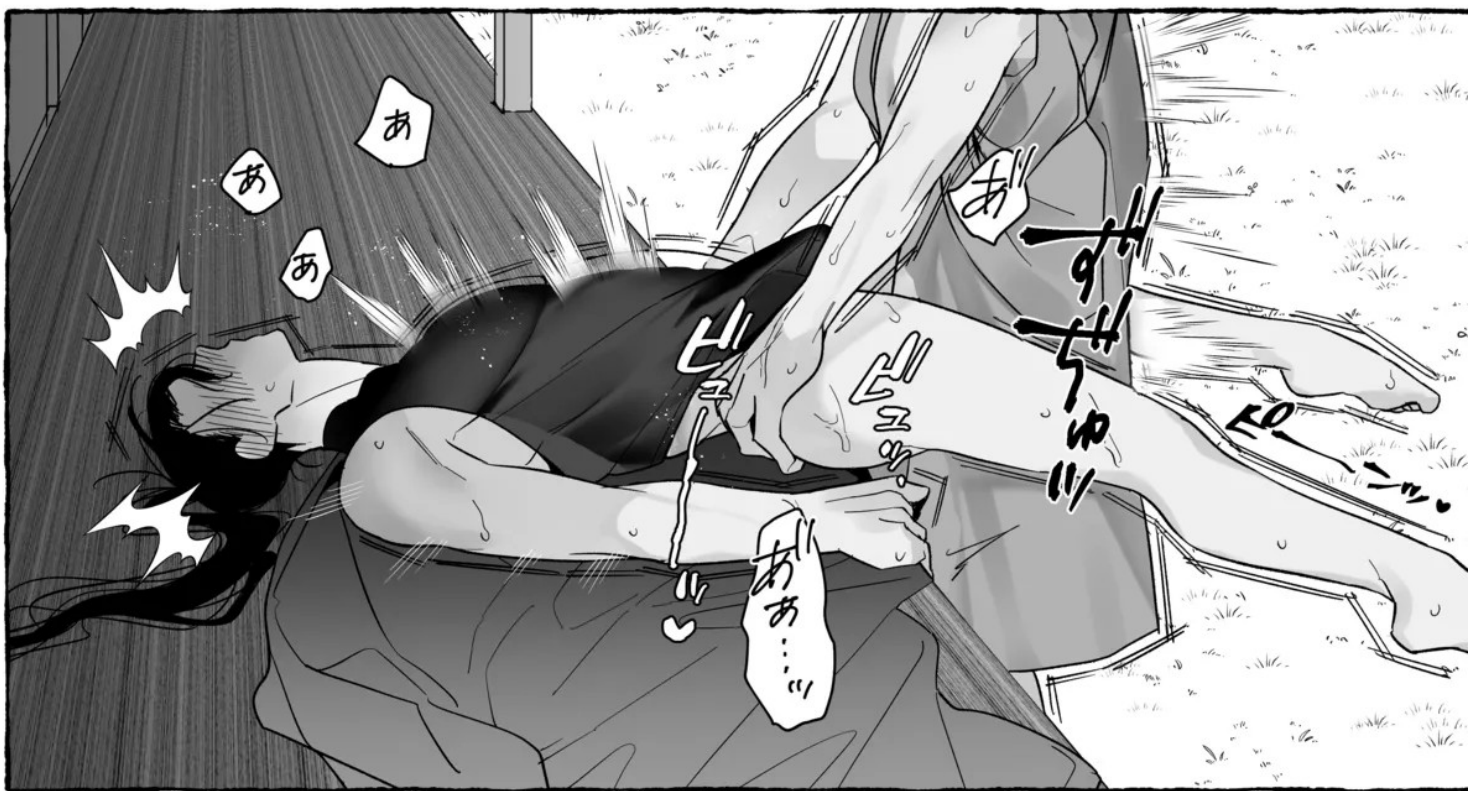


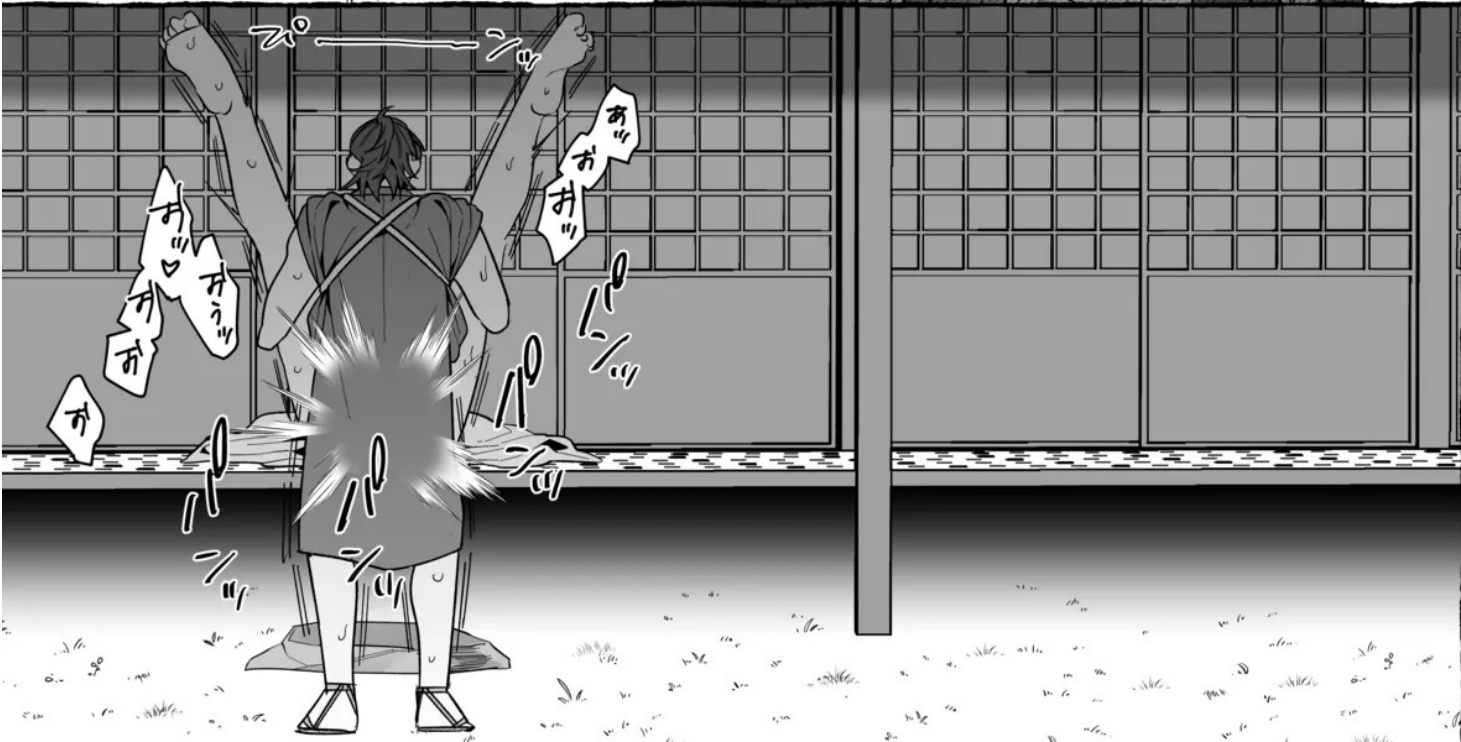
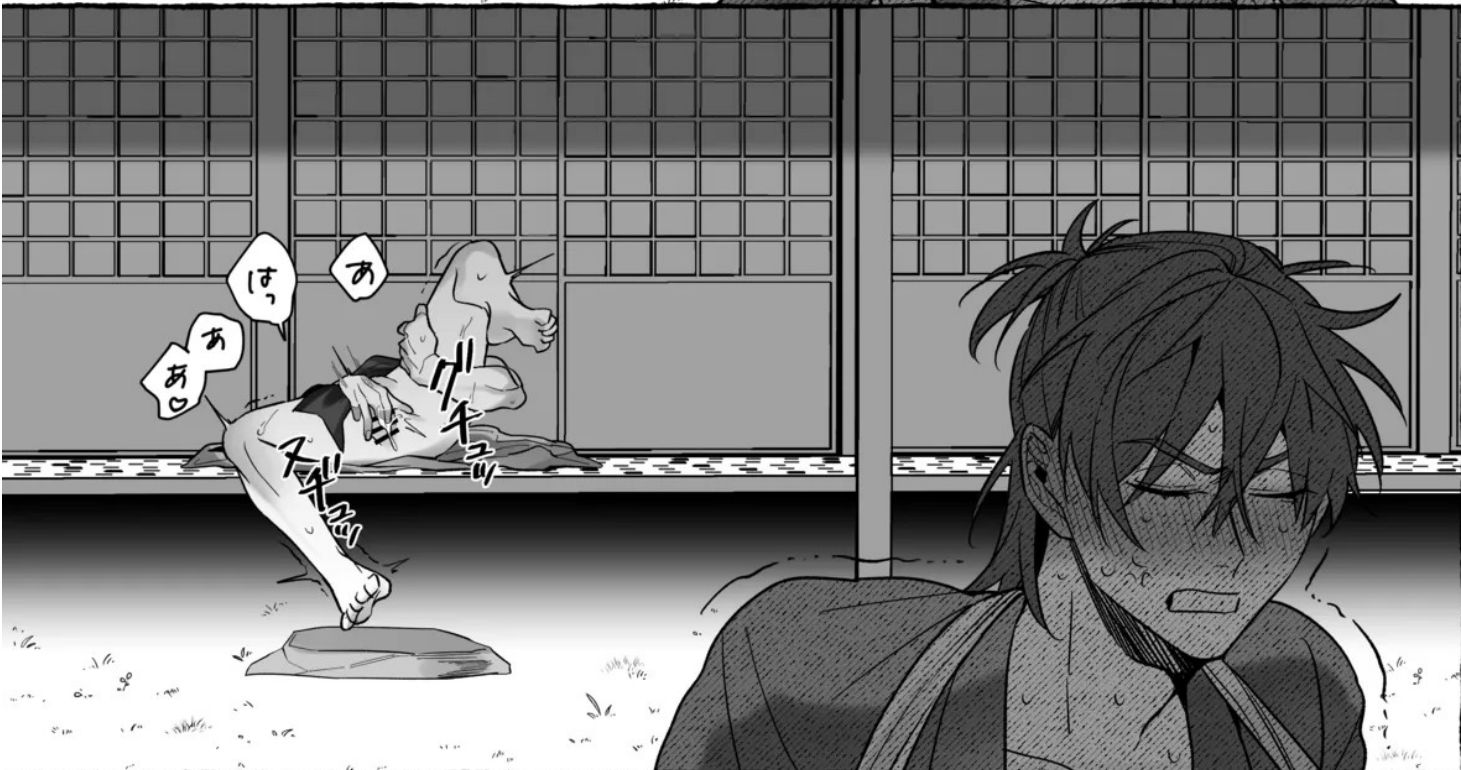
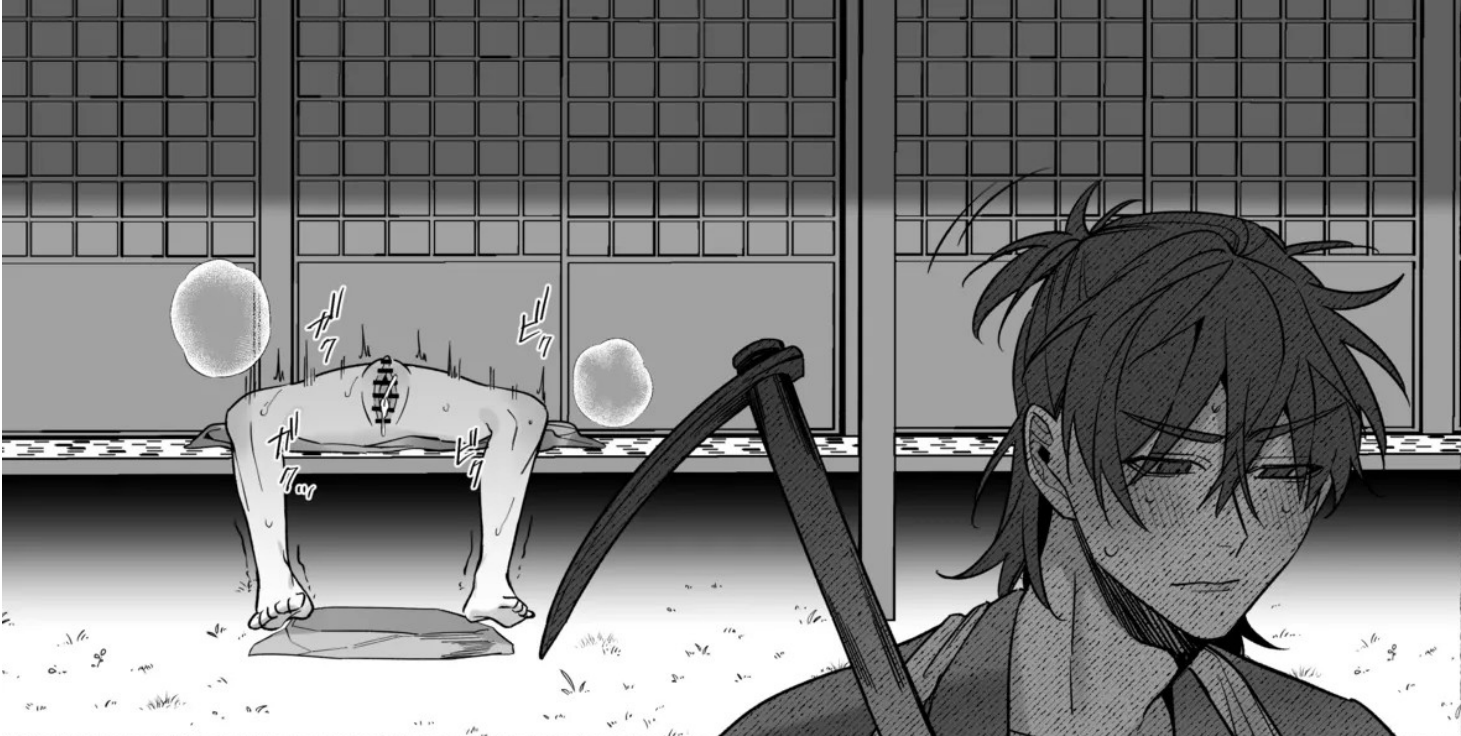














あゝあゝ



風呂入るまで
待ってくれよ…

分かってないな

やっぱ
臭いんじゃない、

この人間臭さが
いいんだろう

嗅ぐな!!







わかった











……憂
瓏

これから先、
俺以外とは
交尾しないで



……ん？

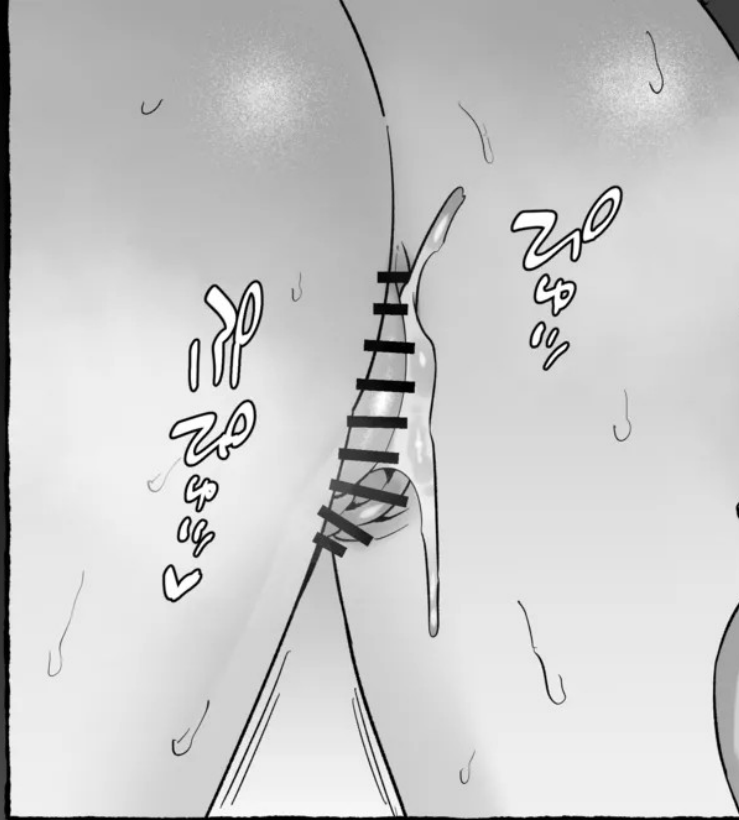
あ……

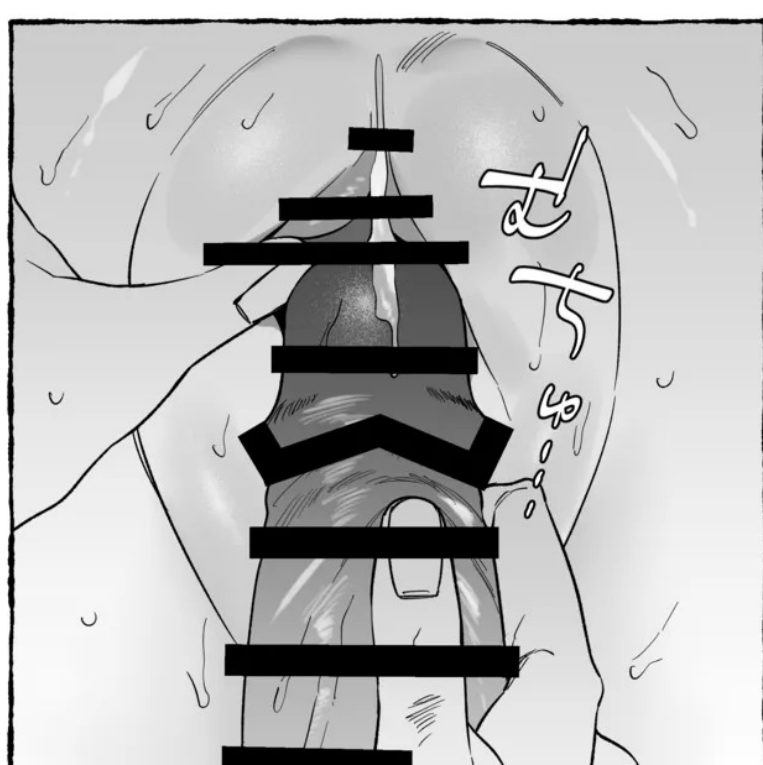
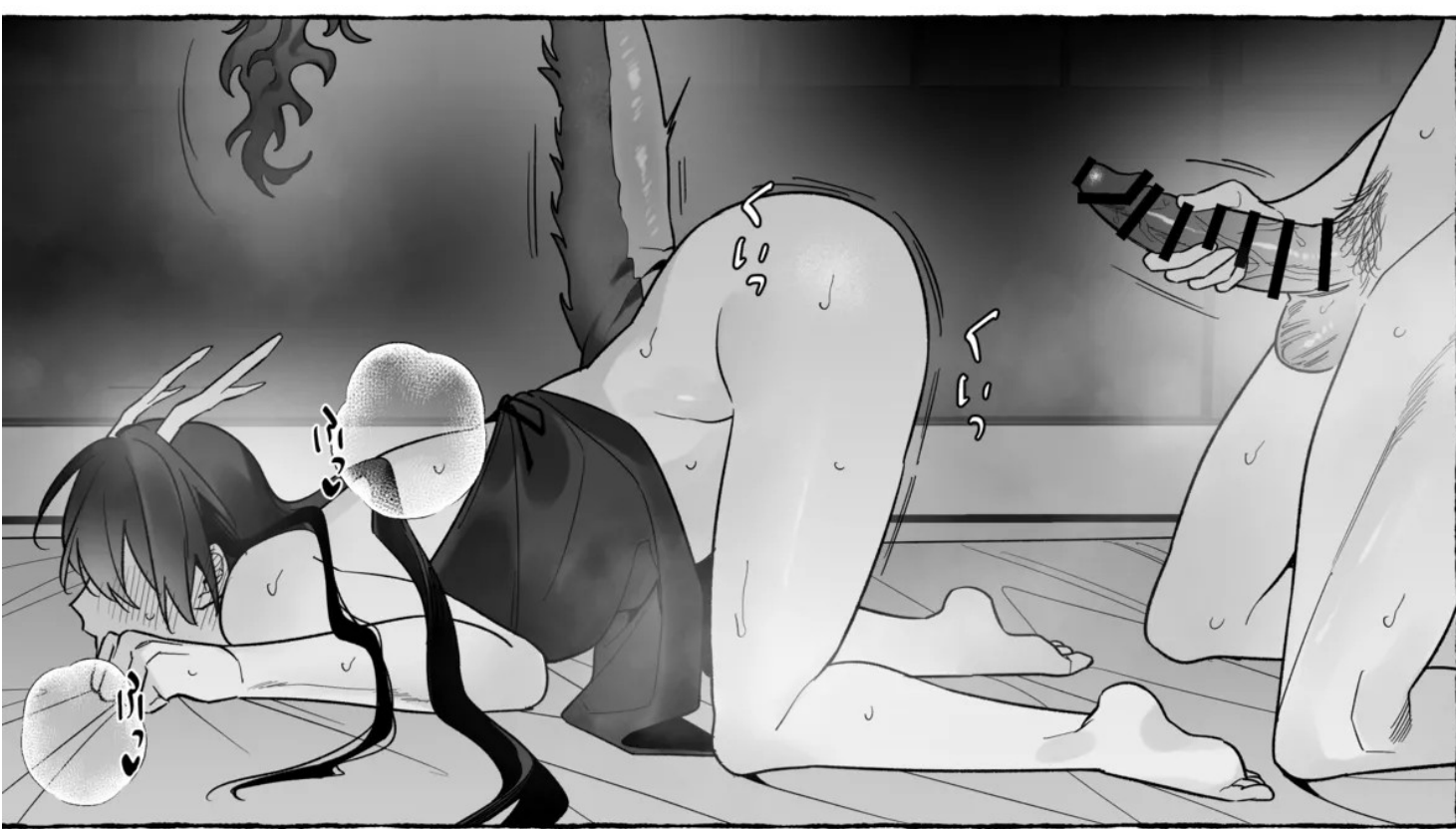


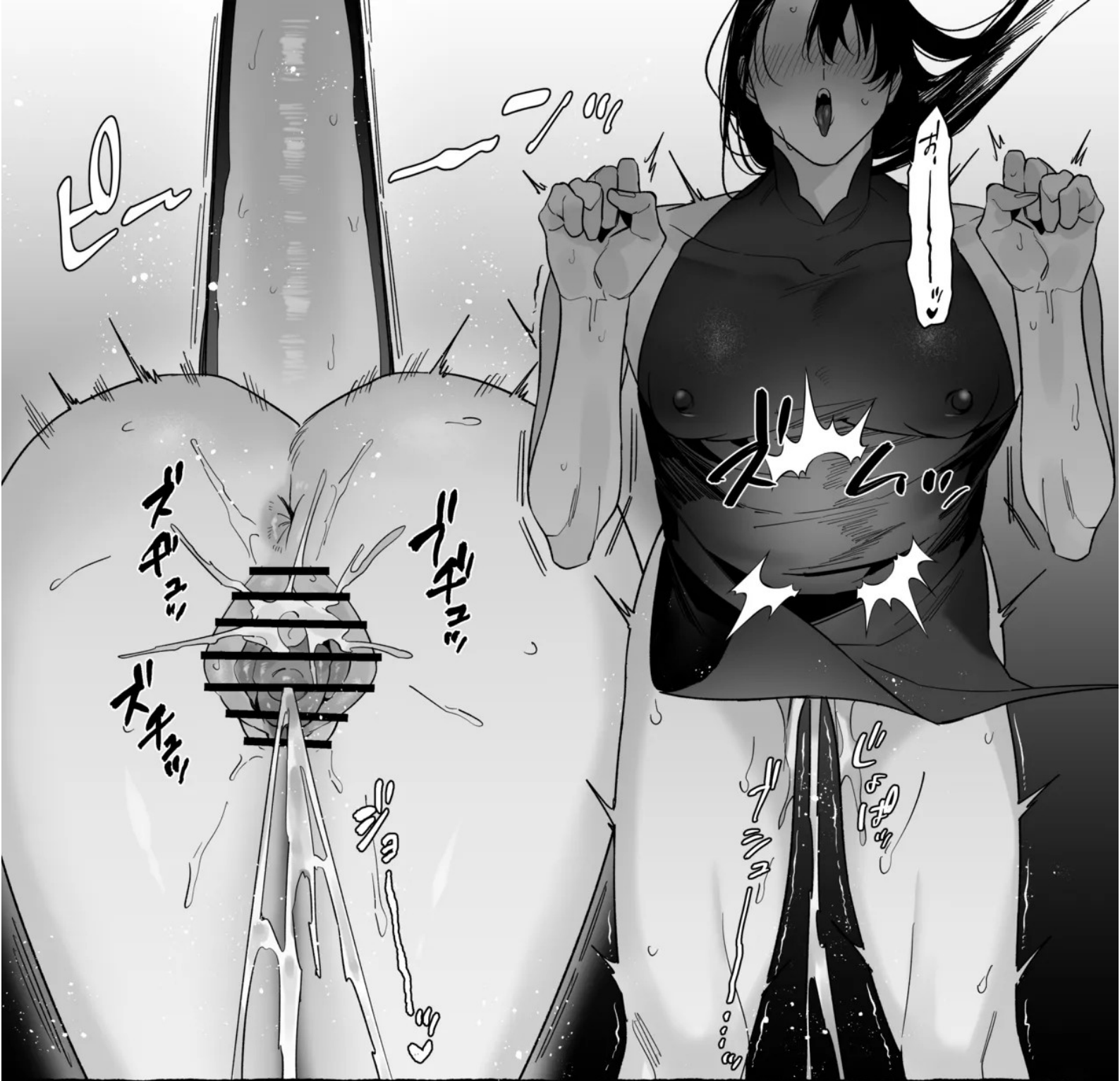
ニ
ア
ニ
ニ

ア
ニ
ニ
















俺の子、
孕んでね

絶対



……当然だ



約束したからな

本作をお手に取っていただきありがとうございます。
設定を決めた当初は目標40ページほどでしたが、
ストーリーを考えたらどんどん長くなってしまいました。
近いうちに続きを出したいと思います。



りょうた
亮太

村で暮らしていた青年。
幼い頃山賊によって両親を亡くし、
村長に引き取られた。
「真面目な働き者」と周囲から評判だが、
有り余る体力を発散させないと
眠れないことがある。
大抵の人間とは少し会話するだけで
打ち解けるほど、明るく気さく。



ユウロン
憂隴

村長の夢枕に現れ、
たびたび助言をする龍神。
名前は大陸にいた頃の名残で、
元はこの国の龍ではない。
食や睡眠を必要としないため、
一般的な人間の生活には疎い。
姿は自在に変えることができる。

四神の中心的存在と言われる黄竜がモデル